

制作 / 株式会社パルコ「ACROSS」編集室 <http://www.web-across.com>

そして、新人類ジュニア世代が関心を寄せるカルチャー・アーカイブに刺激されるようにして、親のである新人類世代までが盛り上がりを見せつつある。

『あまちゃん』の大ヒットは、まさに新人類世代とそのジュニアに同時に響いているコンテンツとして象徴的な現象だ。親子2代に渡るアイドル・カルチャー・クロニクルでもあるこのドラマがNHKの連続テレビ小説として人気を集めていることは、カルチャー・コンテンツを掘り起こし、リアルタイムで共有する楽しみ方が世代間に広がっていることを示している。ここに、本格的なテン年代を迎えるにあたってのヒントがある。

(文: 本橋康治、高野公三子/チャート年表: 尾黒健二)

(※注1) 新人類世代を1960~70年生まれ、新人類ジュニア世代を1986年から1996年生まれとするなど、世代分類には諸説あることをお断りしておきたい。
(※注2) 「情熱大陸」TBS系 2013年2月17日放映



青文字系ファッション誌の読者モデルからKawaiiカルチャーのアイコンへと駆け上がったきやーりばみゆ(93年生まれ)。カラフルなポップさの中に笑いやグロテスク、毒をも内包しているのが彼女の魅力だ。



ここ数年円谷プロ50周年など特撮やアニメのメモリアルイヤーが続く。写真は新たな物語設定とキャラクターデザインで登場した新世代バルタン星人「バレル」とカードゲーム「大怪獣ラッシュ」の記者発表。



きやーりばみゆばみゆも所属するアソビシステムが手がける原宿にダンススクール「ASOBI STUDIO(アソビスタジオ)」も新人類ジュニア世代に大人気。

今月の定点観測

2013年6月1日(土) 実施 / 第390回

カウントアイテム: 女性白アイテム着用、うち白ボトムス

毎月第一土曜日に実施している定点観測。6月は、デザインよりも色や素材が牽引するトレンドが目立つ。なかでも5月に急浮上したネオンカラー(蛍光色)が少し落ち着き、代わって真っ白アイテムを着用する人が急増している。もっとも多かったのは、昨年まではピンクページを着ていたと思われるコンサバ系のブラウス&シャツの白。テロっとした質感のものも多いが、メンズライクなコットンリネンの白シャツなど、カジュアルな白アイテムをフェミニンに着るのが特徴だ。新人類ジュニア世代のあいだでは、トップスもボトムスも靴も白という全身真っ白コーディネートが目立った。特にボトムスがピタッとタイトなシルエットのものが好まれており、モード×スポーティな印象。+サングラスに再び人気のクラッチバッグで、「かわいい」ではなく「かっこいい」。そのあたりのセンスを巧く捉えているのが、コリアンファッションが人気の所以でもある。

ズームアップアイテム1: プロデューサーがけ

80sにテレビ局のプロデューサーの多くがしていたアメカジスタイルがリバイバルしている。もちろん、朝晩や冷房への防寒対策という機能面もあるが、実はコーディネートの「差し色」として巻きものの代わりに着用されている点が新しい。新人類ジュニア世代に限らず、ネオンカラーが多用されており、今夏はカラフルなファッションが増えそう。

ズームアップアイテム2: タイтスカート

あのバブル期に流行ったボディコンファッションが復活?! とでもいうような、身体にぴったりとしたファッションの女性が東京のストリートに増えてきた。なかでもスキニーパンツやショートパンツ、そしてタイトスカートなどボトムスのタイトシルエットが進んでおり、ハイウエスト化も伸張。とはいえ、今春、新人類ジュニア世代の男子にリバイバルした「シティボーイ」とは違い、過去のボディコンファッションに憧れて、という女子はおらず、「タイトスカート=大人っぽい、かっこいい」と、ただ、目の前にやって来た新しいトレンドの潜在的なイメージに反応しているだけという点にも注目しておきたい。

■調査概要:
◎実施日: 2013年6月1日 ◎観察場所/時間: 渋谷、原宿、新宿 / 12:00~18:00
⇒つづきは、ウェブで (<http://www.web-across.com>)

カウントアイテム (今もっとも流行っているアイテムやスタイル、色など)



女性白アイテム着用、うち白ボトムス

ズームアップアイテム (今はまだ数が少ないが、今後増えそうなアイテムやスタイル、色など)

1 プロデューサーがけ



タイトスカート 2

新人類ジュニアがやってきた!

本格的なテン年代の消費のキーワードはこの世代から!

過去のカルチャーアーカイブを掘り起こせ!?

毎月実施している「定点観測」で、原宿に集まるティーンズのファッションが面白くなってきたという会話が出るようになったのはゼロ年代終盤のこと。その「潮目の変化」はここ数年で全国区へと広がりを見せ、原宿発の「KAWAIIファッション」として一大ムーブメントになったが、その主役である90年代に生まれた世代がいま、ファッションやクリエイティブの世界で存在感を発揮しつつある。

2013年は90年代生まれの大学生が卒業し、社会に出てきた節目の年にあたる。彼らの親世代に相当するのは、かつて80年代に「新人類」と呼ばれた世代(1960~64年生まれ:約770万人)が中心だ。そこでこの90年代生まれ世代を「新人類ジュニア世代」として、その特質について考えてみたい。(※注1)

新人類ジュニアと新人類世代の生成史をチャート年表化した。新人類世代は、現在の「クールジャパン」ブームに至るオタクカルチャーの礎をつくった「第1次オタク世代」である。また、マンガや

アニメ、特撮、アイドルなどの子供向けのコンテンツから未だに卒業しないという点で、初めての世代なのである。

新人類ジュニアをACROSSでは1989~94年生まれ(約640万人)として分類している。初代新人類のメンタリティを受け継ぎつつ、生粋のデジタルネイティブでもあるジュニア世代たちは、一般にはゆとり世代と呼ばれることも多い。

ものごころがついた時には自宅にPCがあり、小学生からインターネットを使い、中高生でソーシャルメディアのコミュニティに参加。中学生からスマートフォンを所持し、ブログやSNSを情報ツールとして育ててきた彼・彼女たちが、音楽や映像などのコンテンツをインターネット上のアーカイブで簡単に入手し、それを俯瞰する視点を併せ持っているのは、ある意味当然ともいえる。

90年代生まれのクリエイターたちを近くから見てきたBEAMS創造研究所の青野賢一さんは、新人類ジュニア世代について、次のような世代傾向を指摘している。

- ① 既存のメディアと自分で作るメディアの併用
- ② 自己矛盾との共存
- ③ 古いものへの憧れ
- ④ マルチプレイヤー

「私たちの世代はインターネットがあったからいつの時代 にもすぐにタイムスリップできます。だから最近では岡村ちゃんのPVとか見て発狂してます(笑) 雑誌とかも『オリブ』とか『スタジオボイス』、昔の『ロッキン』を見たりして。その時代がぎゅっと詰め込まれていますよね」(前田エマ/1992年生まれ/ Webマガジン『KNot』インタビューより)

ゼロ年代以降の「スーパーフラット化」した文化を背景に、もはや「未知なる新しいカルチャー」が見当たらなくなった今、彼・彼女らが憧れとともに見ているのは、豊富なアーカイブが広がる「過去」の世界なのである。

「甘いもの、カワイイもの、少女的なものにどっぷり浸りつつ、戦場的なものやアングラ的なものも大好きなのだよね。だから自分のことを簡単に“〇〇系”ってカテゴライズしにくくなる。切り替え

できるチャンネルをいくつも持つてる、だけどどれも自分、全部あって初めて自分。みたいな。」(大石蘭/1990年生まれ『fatale』ブログより)

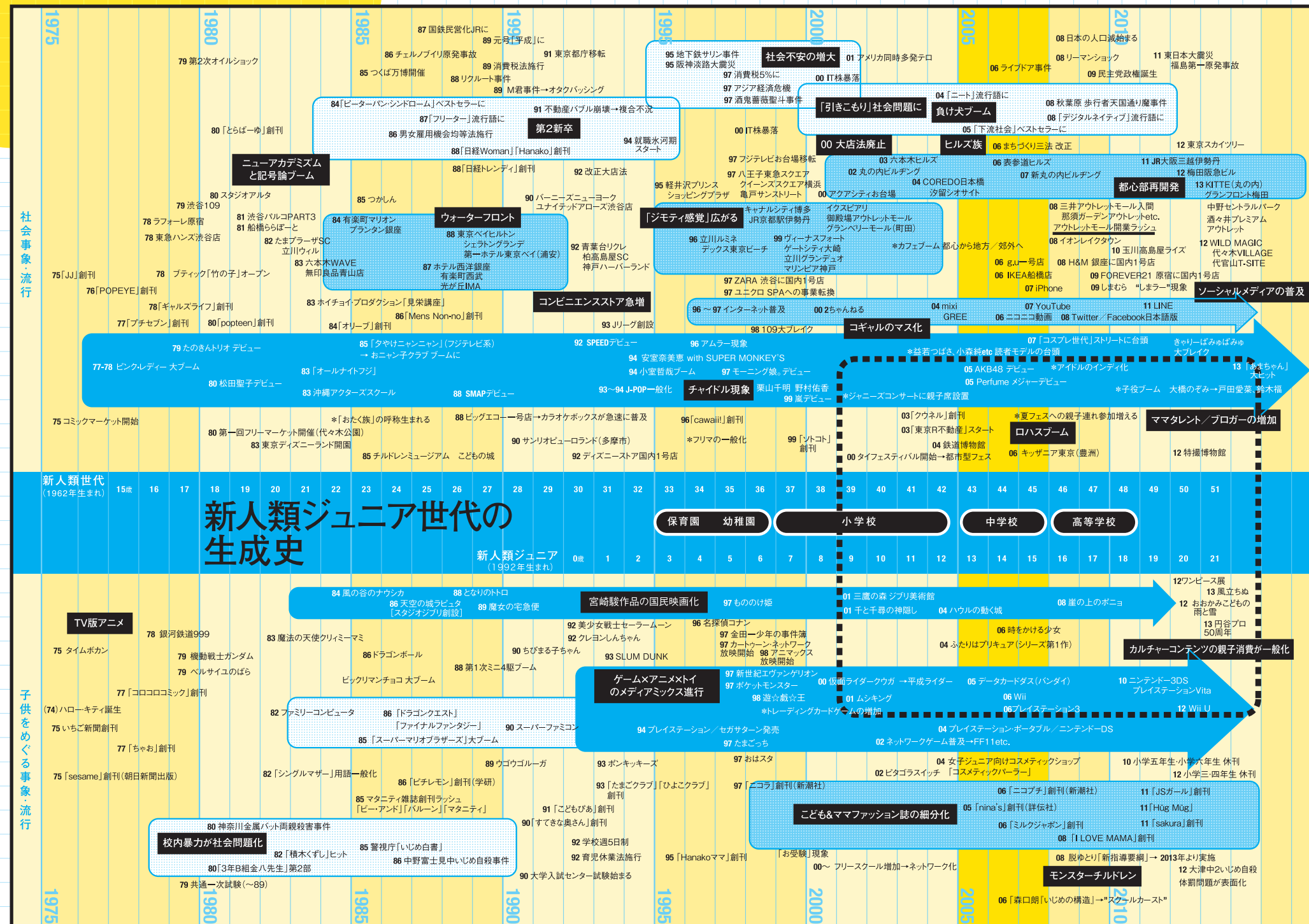
クールな自己分析が社会や先行世代だけでなく、自らの世代にも向けられているのも新人類ジュニアの特徴だ。

今やジャンルを超えたポップアイコンとなったきゃりーぱみゅぱみゅ(1993年生まれ)にも、このクールさは通じるものがある。自らを「新人類」と表現し(*注2)、『あたしアイドルじゃねーし!』と連載コラム(TVBros)のタイトルで叫ぶのも、客観的な自己分析の表れだ。「コスプレ的」に自らをキャラクター化するのは自己矛盾を表現として取り込む手段なのである。

ゼロ年代は、さまざまな分野で「IT化」が進行。評価の高いものがより支持を集めるされるという保守的な消費スタイルが広がった

時代だ。80年代生まれの「ウチら世代」はそうした社会の動きに、同世代のネットワークやセルフプロデュースで巧みに対応した。テン年代に入る頃には、そうした風潮の反動もあって個性的なものやエッジの効いた表現が求められるようになってきた。

その流れは、「カワイイ」が「容認」を意味する記号へと広がった現在、3.11を経て、「いいものを長く」というロングラスティング消費も浸透する一方、「人と違うもの」=「かっこいい」へと移行しつつある、というのがストリートファッション・マーケティングからの考察である。



1. 大石蘭 / 90年福岡県出身のライター、イラストレーター。東京大学大学院修士在学中。

2. 「押し付けられた『個性』に縛られない」という同世代90年代女子をタイプ別に分類した大石蘭のイラストコラム「90年代女子図鑑」(「1990X」より)。

3. テキスタイルを主軸とするブランド「ハートの。」を立ち上げたデザイナー・藤澤ゆき(1989年生まれ)。

4. 高校生にして編集長として雑誌『LIKTEN』を発行、一躍注目を集めた小田明志(91年生まれ)。

5. 『magazine Rocket』フードプロガー・平野紗季子(91年生まれ)特集号。彼女の食文化のDIGっぷりにはベテランの題するある。

6. 『spoon』編集長の青藤まことは「1990X」(KADOKAWA MOOK)で90年代生まれ女子と90年代ガールリーカルチャーをMIXしてみた。

7. 2012年12月、現役の大学3年生がファッション誌を創刊したとSNSを介して話題となった『Nmagazine』。

過去のファッションアーカイブからその日の気分を着替えるのが新人類ジュニア世代の特徴。

表面的なデザインやスタイルではなく、ファッションの背景にあるカルチャーを着たい、という新人類ジュニア世代の男子。

社会事象・流行

1975 75「JJ」創刊

1980 79 第2次オイルショック

1985 86 チェルノブイリ原発事故

1990 87 国鉄民営化JRに

1995 95 地下鉄サリン事件

2000 00 IT株暴落

2005 06 ライブドア事件

2010 08 日本の人口減始まる

2015 11 東日本大震災

社会不安の増大

「引きこもり」社会問題に

負け犬ブーム

第2新卒

ニューアカデミズムと記号論ブーム

ウォーターフロント

コンビニエンスストア急増

「ジモティ感覚」広がる

コギャルのマス化

チャイドル現象

ロハスブーム

ママタレント／ブロガーの増加

ソーシャルメディアの普及

新人類ジュニア世代の生成史

新人類世代 (1962年生まれ)

15歳 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51

新人類ジュニア (1992年生まれ)

0歳 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21

保育園 幼稚園 小学校 中学校 高等学校

子供をめぐる事象・流行

TV版アニメ

75 タイムボカン

78 銀河鉄道999

79 機動戦士ガンダム

79 ベルサイユのばら

77「コロコロコミック」創刊

(74)ハローキティ誕生

75 いちご新聞創刊

77「ちゃお」創刊

75「sesame」創刊(朝日新聞出版)

80 神奈川金属バット両親殺害事件

82「積木くずし」ヒット

85 警視庁「いじめ白書」

86 中野富士見中いじめ自殺事件

80「3年B組金八先生」第2部

80 共通一次試験(〜89)

84 風の谷のナウシカ

86 ドラゴンボール

86「ドラゴンクエスト」

86「ファイナルファンタジー」

85「スーパーマリオブラザーズ」大ブーム

88 となりのトトロ

89 魔法の宅急便

90 スーパーファミコン

92 美少女戦士セーラームーン

92 クレヨンしんちゃん

93 SLUM DUNK

96 名探偵コナン

97 金田一少年の事件簿

97 カートゥーンネットワーク

97 新世紀エヴァンゲリオン

97 ポケットモンスター

98 遊☆戯☆王

98 アニマックス

98 遊☆戯☆王

98 アニマックス

97 もののけ姫

97 金田一少年の事件簿

97 カートゥーンネットワーク

97 新世紀エヴァンゲリオン

97 ポケットモンスター

98 遊☆戯☆王

98 アニマックス

01 三鷹の森ジブリ美術館

01 千と千尋の神隠し

04 ハウルの動く城

06 時をかける少女

06 Wii

06 プレイステーション3

08 崖の上のポニョ

10 ニンテンドー3DS

12 Wii U

12 ワンピース展

13 風立ちぬ

12 おおかみこどもの雨と雪

13 円谷プロ50周年

カルチャーコンテンツの親子消費が一般化

ゲーム×アニメ×玩具のメディアミックス進行

01 仮面ライダーウグウガ →平成ライダー

05 データカードダス(バンダイ)

10 ニンテンドー3DS

12 Wii U

04 プレイステーション・ポータブル/ニンテンドーDS

02 ネットワークゲーム普及→FF11 etc.

04 女子ジュニア向けコスメティックショップ

10 小学五年生・小学六年生 休刊

12 小学三・四年生 休刊

04 ビタゴラスイッチ 「コスメティックバーラー」

06 「ニコプチ」創刊(新潮社)

05 「nina's」創刊(詳伝社)

06 「ミルクジャボン」創刊

08 「I LOVE MAMA」創刊

11 「JSガール」創刊

11 「Hüg Müg」

11 「sakura」創刊

08 脱ゆとり「新指導要綱」→2013年より実施

12 大津中2いじめ自殺

体罰問題が表面化

00～ フリースクール増加→ネットワーク化

06 「森口朗「いじめの構造」→「スクールカースト」

08 脱ゆとり「新指導要綱」→2013年より実施

12 大津中2いじめ自殺

体罰問題が表面化

06 「森口朗「いじめの構造」→「スクールカースト」

08 脱ゆとり「新指導要綱」→2013年より実施

12 大津中2いじめ自殺

体罰問題が表面化